

小笠原におけるアテモヤ栽培の実際



アテモヤ栽培について

小笠原では「ピンクス・マンモス」や「ジェフナー」が比較的育てやすく食味も良好です。生育も旺盛なので手入れを怠ると過繁茂となりがちですが、ここでは施設におけるトレリス仕立てによる栽培法を紹介します。トレリス仕立てとは、生垣のように左右に枝を伸ばす仕立て法です。面として栽培できるので作業性が高く、縦に2～3段に仕立てることで空間を有効に利用できます。

栽培の実際

●育苗・接ぎ木

台木として、チェリモヤまたはアテモヤの実生を用います。播種後1～2年後に接ぎ木可能な太さ（直径10～15mm）になります。接ぎ木は3～5月が適期であり、切り接ぎ、腹接ぎ、割り接ぎなど、いずれの方法でも活着率は良好です。

●定植

株間3～4m、条間3m程度で植え付けます。最終的に株間6～8mとなるように、成長に応じて縮伐・間伐を行い成園化します。「ピンクス・マンモス」は樹勢の強い品種なので、樹勢管理に気を付けて管理します。

●整枝（骨格枝の作り方）

トリス仕立てでは、1段目の主枝を高さ 50~70cm 程度に設け、そこから約 50cm 上に2段目の主枝を誘引します。同様に3段目まで仕立てます。

定植1年目は主幹を50~70cmほどで切断し、側枝を左右に誘引します。これを1段目主枝とします（図1）。

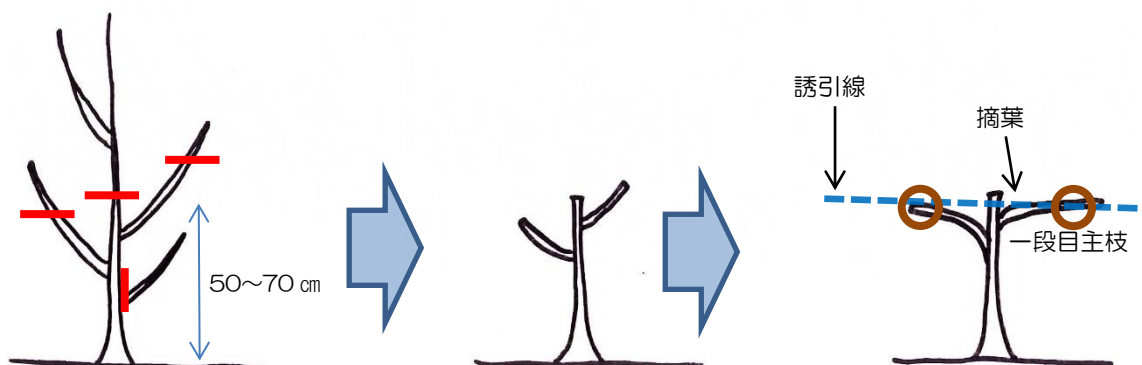


図1 定植1年目の剪定・誘引（— は剪定、○ は結束部位）

定植2年目は、主幹に近い1段目主枝の葉を摘葉することで生じた側枝を2段目主枝とするように誘引します。1段目主枝は先端を摘芯します。側枝の摘芯は2節残し短梢剪定（枝径6~10mm）を行い、これを結果母枝とします（図2）。結果母枝の距離は30cm程度にします。

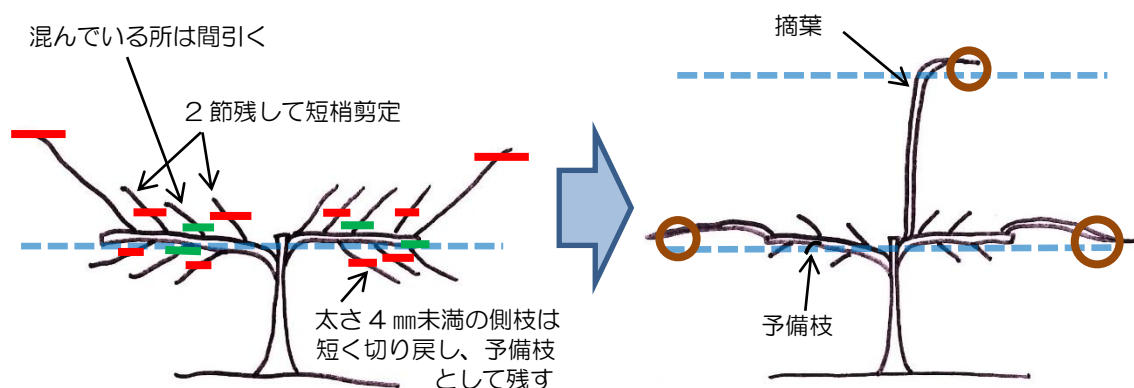


図2 定植2年目の剪定・誘引（— は切り戻し剪定、— は間引き剪定、○ は結束部位）
（参考：静岡県農政部「あたらしい農業技術 No.274」）

●剪定

新梢伸長は2月下旬から始まります。6月に本剪定を行いますが、6月まで放任すると枝が混みすぎ、病害虫の発生を助長しますので、4月に新梢基部を20cm程度残して、粗剪定（枝整理）を行います。開花は4月から8月にかけて連続的にみられるため、9~10月の秋期収穫も可能ですが、低品質になる傾向があります。品質の高い冬期に収穫するためには、6月に剪定を行った方が

良いでしょう。

剪定時の結果母枝径が 10 mm 以上であったり、受粉後の気温がおよそ 28℃ 以上になると着果率は低下します。

4 mm 未満の側枝は来年の予備枝にします。主枝基部から発生する新梢は、樹形を乱す徒長枝となりやすいため芽かきするほか、混み合った枝は間引きます。枝を発生させたい場合は、発生させたい部分の葉を、葉柄を残して切除します。1 週間程度で葉柄が落脱し新芽が展開します（図 3）。



図 3 摘葉した痕から新芽が展開する

●開花・人工授粉

生育が順調であれば、定植 2 年目から花芽の形成がみられます。花芽の多くは結果母枝から発生した新梢の基部から 10 節以内につきます。品質の高い果実を得るために、受粉時期は 7 月中旬～8 月中旬とします。両性花ですが雌雄異熟であるため、花粉を別途採集しておき、人工授粉を行います。人工授粉はめしべの表面が濡れてくる夕方に行います（図 4）。



図 4 花粉採集適期の花（左）および絵筆を用いた人工授粉（右）

●摘果・結実

隔年結果性はほとんどみられません。適正な葉果比は約 50 であり、これを目標に、結実確認から 2～3 回の摘果を行います。「ピックス・マンモス」は人工受粉から収穫まで約 132 日を要し、平均果実重 363.2g、平均糖度 21.4Brix% になります。収穫は果頂部の果皮色が緑色から薄緑色に変化した時点が目安です。トレリス 3 段仕立ての成木では、1 樹あたりの収穫量を約 40 kg（100～120 個、1.5～2t/10a）を目標に着果調整します。

●貯蔵・追熟

果実は低温に弱く、12℃以下になると低温障害が生じるなど、長期貯蔵は不向きです。15～16℃が最適貯蔵温度で、高湿度条件下で2週間程度貯蔵できます。追熟については、15～20℃で7～10日、25℃で5日程度で完熟します。追熟に伴い果肉は軟化し芳香が生じますが、果皮がもろいため、出荷時にはフルーツキャップを使用するなど、傷がつかないように注意が必要です。

●施肥

施肥は、新梢伸長期、果実肥大期、収穫終了後にそれぞれ分量でN-P₂O₅-K₂Oを5-1-5kg/10a(2年生樹)、20-5-20kg/10a(成木)を目安に行います。生育状況に応じて適宜調整してください。

●病害虫

ハダニ類、カイガラムシ類の被害が目立ちます。ハダニ類は葉や果皮を変色させ、商品価値を低下させます。カイガラムシ類は葉や果梗部などに付着し、すす病を誘発します。剪定や枝整理をして採光、通風を良好に保つよう心がけましょう。

【高品質果実生産のための栽培暦】

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
生育ステージ		新梢伸長開始	新梢伸長期				開花期	果実肥大期				収穫期	
作業		施肥	粗枝整理		剪定	授粉	施肥			収穫・出荷		施肥	

*無剪定の場合は4月から開花がみられ、秋に収穫期を迎えます。

本資料の内容に関するお問い合わせ先

東京都総務局小笠原支庁産業課 亜熱帯農業センター

〒100-2101 小笠原村父島字小曲 電話 04998-2-2104